

2025 年度 傾斜的研究費（全学分）
社会連携支援（A 型・B 型） 研究報告書

※**本学 HP** での公表を前提に記入してください。

【研究費区分】：②社会連携支援（B 型（社会連携））

【研究代表者所属】：都市環境学部 地理環境学科

【研究代表者氏名】：飯島 慈裕

【研究代表者氏名フリガナ】：イイジマ ヨシヒロ

【研究代表者職】：教授

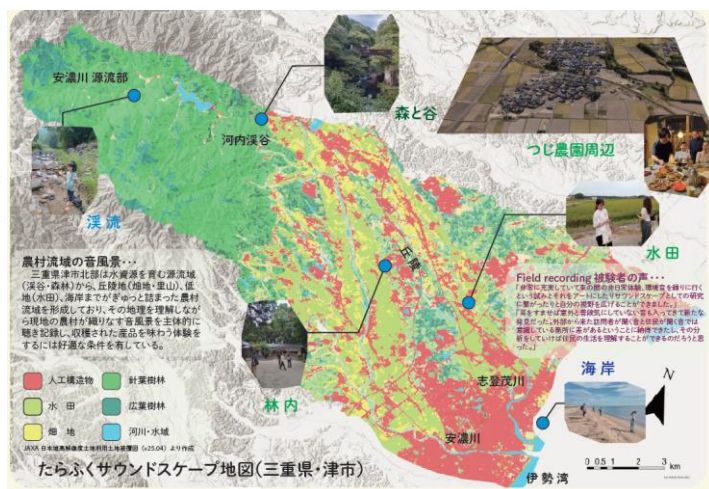
【研究分担者（所属,氏名,職）】

・都市環境学部 観光学科, 坂本優紀, 助教

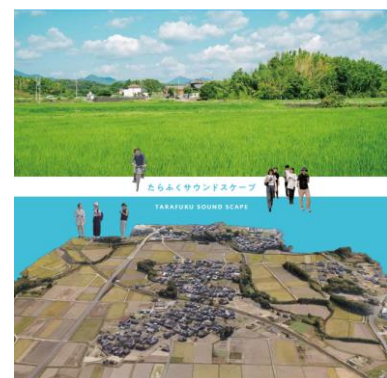
【研究課題名】：稲作流域の音風景と都市・農村関係づくり

【研究実績の概要（400 字程度で記入。図，グラフ等の使用も可。）】

・本研究は、都市と農村の乖離や農業理解の低下という課題に対し、「音風景（サウンドスケープ）」を地域理解のツールとして活用し、五感を通じた新たな都市－農村関係の構築と文化交流プラットフォームの社会実装を目指して実施され、実証フェーズとして大きな進捗を遂げた。具体的には、2025 年 7 月と 9 月に都立大の学生・大学院生を含めた参加者を交えたフィールドレコーディングを三重県津市のつじ農園の協力を得て実施し、海岸から稲作地帯、水源地域の山間部に至る多様な音風景と地理情報を組み合わせた文化素材を開発した。さらに同年 12 月には、これらの音を編集した作品を用いて首都圏で視聴体験イベントを開催し、都市住民に対する有効性の検証を行った。一連の活動により、音風景体験が地域理解や農村の価値再評価に有効であるという確証が得られ、今後のインバウンド向け事業化や社会連携モデルの展開に向けた基盤が構築された。



事業により制作されたサウンドスケープ地図



制作された音源レコード表紙



由紀精密社製レコードプレーヤー
(AP-01)にて音源レコードを視聴



AKMのオーディオルームで
高品質な音に触れる

旭化成エレクトロニクス（AKM）のオーディオルーム（新横浜）で開催した音源視聴イベント

【研究成果の都民への還元あるいは東京都への政策提言】

・農村空間の「音風景」を都市住民が五感で追体験するプログラムの実証により、都民向けの農村文化体験のプログラム化が見込まれる。また、このプラットフォームを応用した「東京都市圏と地方をつなげる新たな文化交流モデル」や、高付加価値観光コンテンツ、さらには多摩地域等の都内農林業振興に向けた音風景の活用施策が提言できる。加えて、都立大の教育研究への貢献として、地理学、芸術、音響工学にまたがる「超学際チーム」による連携手法が、学生（特に英語学位プログラムや共創学部）への実践的な地域調査やフィールドワーク教育の好コンテンツとなりうる。

【東京都以外への社会への提言や活動の実績】

・リバネス社が主催する超異分野学会 2026 東京大会にて発表を行い、企業や他の大学・自治体などへの本実証研究の有効性をアピールする活動を行った。

・連携先のつじ農園が運営する、農泊施設「SOU」・研修施設「KOU」において、旅行滞在者（特にインバウンド向け）や企業研修に本プログラムを体験する仕組みを構築する予定。

【外部資金への応募状況】

・今後、プログラムの実装に向けて関連する研究費への申請を計画している。

【科学研究費助成事業や国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

なし

【出版したことによる波及効果（研究費区分が③社会連携支援（B型（出版））の場合のみ、記載してください。）】